

深田のぼる 後援会ニュース

第3号 2011年12月発行

地震・津波から「早く・高い所に逃げる」ための情報提供が重要

先日、所属する会派(市民クラブ)で岩手県陸前高田市の視察に行ってきました。防潮堤などハード面だけでの地震・津波対応には限界があることや、防潮堤やハザードマップに頼りきらず、できるだけ早く、少しでも高い所に避難する大切さを再認識できた視察でした。

市民の方々とお話していますと、東海地震への不安から地震・津波に関するご質問をたくさん頂きます。以下、よく頂くご質問と私がお答えしている内容を、Q & A形式でご紹介させていただきます。

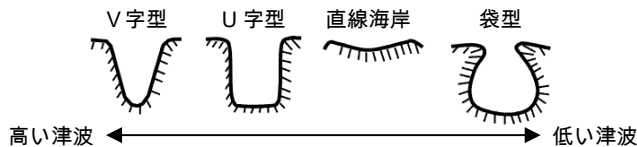


震災後も残った建物の屋上より撮影



沼津にもとんでもない高さの津波が来るの？

地理的な構造として、震源地の「海底の深さ」が深いほど高い津波になり、「湾の形状」が下図の袋型からV字型の順に高い津波になる傾向があると言われています。沼津市沿岸の大部分は、大きな弓形の直線海岸であり、かつ海底の深さが東北の日本海溝 8,000m に対して東海の駿河トラフは 3,000m と浅いことから、東日本大震災のような津波の高さにはなりにくいと考えられています。



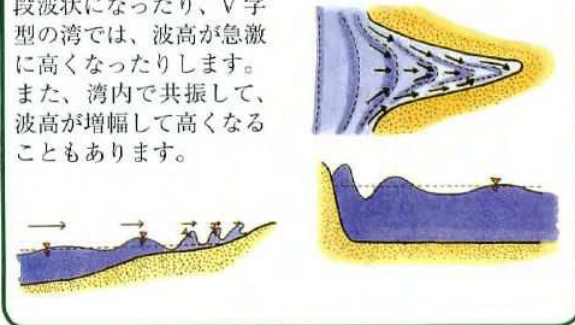
湾の形状、イメージ図
(石垣島地方気象台「地震・津波の教室」から)

津波の高さ

水深が浅くなると、津波は速度を落とし、その分波高が急激に高くなります。

さらに、遠浅の海岸では、段波状になったり、V字型の湾では、波高が急激に高くなったりします。また、湾内で共振して、波高が増幅して高くなることもあります。

水深が浅くなると津波の速さが遅くなり、後ろからの波が覆いかぶさるようになります。



津波の高さ、イメージ図

(「沼津市地震・津波防災マニュアル」から)



そうは言っても想定外の波の高さもありえるんじゃないの？

相手は自然であり想定外がないとは言い切れません。防潮堤の高さやハザードマップに頼りきらず、地震発生の際は1秒でも早く、より高い所に避難できるよう、私たち自身が準備しておく必要があります。素早く逃げるためには、災害情報の迅速かつ正確な入手が必要不可欠です。全ての市民が、様々な手段により情報を入手でき、その情報を元に避難行動をとれるよう、市への提言をしていきたいと考えています。



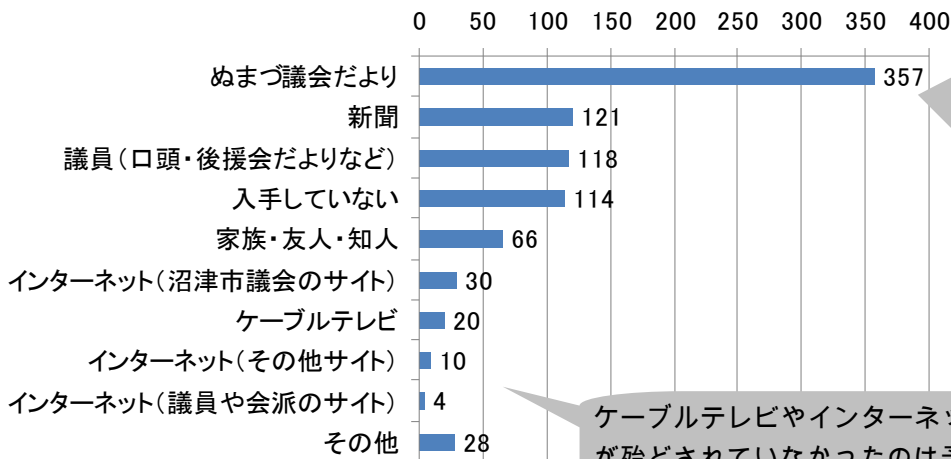
津波到着まで5分だなんて聞いたけど、そんな時間じゃどこへも行けないよ！

5分とは第一波の到着時間のことかと思えます。津波は、第一波では最大の津波高さにならず、繰り返し波が押し寄せたときに同調して高くなるため、波が高くなるまでにはもう少し時間があると言われています。波が高くなるまでの間に少しでも高い所に逃げるために知っておきたいのが普段生活している場所の海拔です。海拔を参考に、より高い所を目指して逃げてください。パソコンから海拔を調べる方法が沼津市のホームページで閲覧可能です。是非一度ご覧頂ければと思います。

「ぬまづ議会だより」の自主アンケートを実施しました

「ぬまづ議会だより」をより良い広報誌としていくために市民の皆さまの声を聞かせて頂きたいと考え、議員仲間3名で立ち上げた「議会だより自主研究会」でアンケートを実施しました。研究会に所属していない3名の議員のご賛同も頂いて8月13日(土)～8月31日(水)の期間で実施したところ、606名の方からご回答頂くことができました。協力して下さいました方々、本当にありがとうございました。

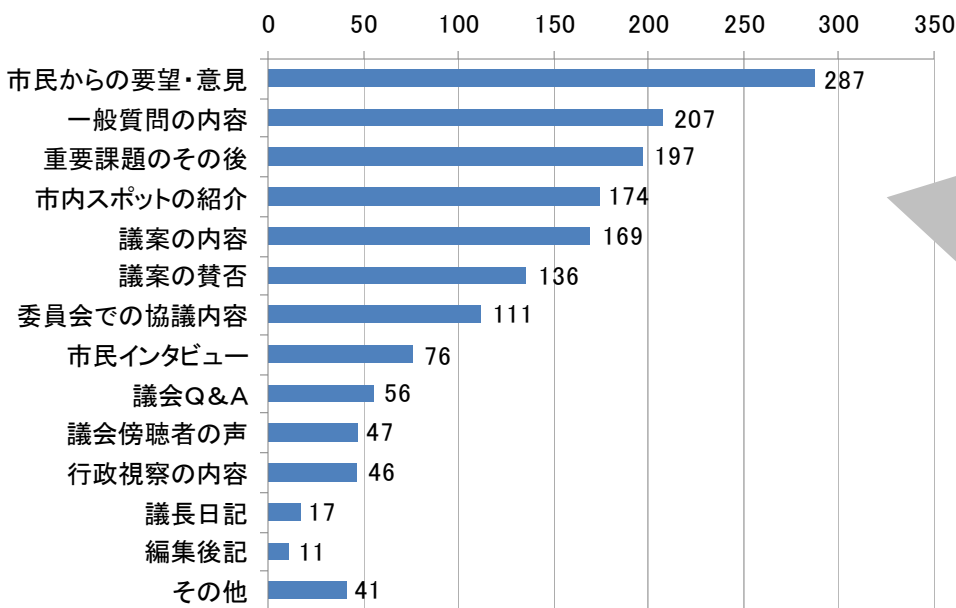
沼津市議会の情報をどこから入手されているか、お聞かせください。(複数選択可能)



357名(58.9%)もの方から「議会だよりから情報入手している」とお答え頂きました。「広報ぬまづに挟み込んで配布されている効果」や「議会への興味が高いほどアンケートの協力を頂きやすい傾向」などの影響があるのかもしれませんが、うれしい誤算でした。

ケーブルテレビやインターネットからの情報入手が殆どされていなかったのは予想外でした。

【議会だよりサンプル】をご覧の上、ご興味のある内容をお聞かせください。(複数選択可能)



現状のぬまづ議会だよりの紙面の大部分を占めている「一般質問の内容」の他にも「市民が知りたい内容」は多くあることがうかがえる結果となりました。

「議会・議員がお伝えしたい内容」や「新規読者を増やすための内容」も踏まえながら、議会だよりはどうかあるべきか、研究を進めていきます。

別途お聞かせ頂いた自由記入欄では「市民目線な読みやすさ」や「議会・議員の更なる情報開示」を望む声が多く寄せられました。私は「議会だより＝市民と議会・議員とのコミュニケーションツールの1つ」と捉えており、またそういった意味でより良い議会だよりとなる余地は十二分に残されていると考えています。

現在、性別・年齢・職業毎の傾向を踏まえながらアンケート結果を詳細分析中です。分析する中でより良い議会だよりの形を描き出し、提案していきたくと考えています。また後日ご報告させていただきます。

深田のぼるよりひとこと

議員となり約半年が過ぎました。たくさんの方々からご意見・ご要望を頂き、それに応えようとする中で日々学んでいるような状況で、あっという間の半年でした。背伸びなど決してせず、着実に地力をつけていきたいと考えています。今後とも皆さまの声をお聞かせください。



ご意見・ご要望がありましたら、後援会事務局までご連絡ください。